



<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドブレイス509 アネックス5F
TEL. 045(440)3210 FAX. 045(440)3209

発行元／公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

発行人／会長 小澤 俊通

編集人／神私幼総務部(広報室)

発行／年4回(6月・9月・12月・3月)

発行部数／1700部



箱根湯元温泉宿泊

幼稚園教育経営研修会開催



神原友二次世代育成課長



秋山昌弘私学振興課長



基調講演：伊藤学司氏



講座：黒川隆一氏、最所和子氏



園見学：友愛幼稚園



園見学：浅野記念御湊端幼稚園

index

2/3

全ては未来を担う子ども達のために、
そして保育の現場で汗をかく先生方のために
幼稚園教育経営研修会を開催
危機を好機に変えよう

4/5

研修・研究活動は幼稚園教育のかなめ
12協会の研修・研究活動に対する取り組み

6

研修事業部・研究部
研究特別A部会
共感し、問い続ける保育者集団を育む
研究特別B部会
「研修を受けている」ではなく
「研究している」感覚を大切に

7

平成29年度 私学振興費の概要について
既卒者向け就職セミナーを振り返って
園と既卒者のかけはしに

8

研修会報告／法律相談／教育相談

全ては未来を担う子ども達のために、 そして保育の現場で汗をかく先生方のために

早いもので、平成二十八年年度も年度末を迎えました。加盟園におかれましては、卒園の準備と来年度入園児受入準備に追われていることと存じます。県運は昨年五月に新役員が就任して九ヶ月が経過しました。私も二期目の会長職を受け、新しい役員共々、「私立幼稚園」の声を各方面へ届けるべく懸命な努力を続けてまいりました。慌ただしく、そして目まぐるしく過ぎた日々を改めて振り返りたいと存じます。

■二年目を迎えた新制度

平成二十七年年度からスタートした「子ども・子育て支援新制度」は二年目を迎え、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。十九年度から認定こども園制度が始まったものの、財政支援がほとんど期待できず、当初の想定通りには普及しませんでした。それでも制度の見直しが進み、全国で一二〇〇を超える認定こども園が誕生しました。その後、二十四年に「子ども・子育て支援新制度法案」が成立し、ほとんどの認定こども園は、二十七年度に新制度へ移行致しました。この法律により、社会保障の一つとして「子育て支援」が組み込まれた事は大きな前進でありました。

平成二十九年年度からの移行状況は、全国の私幼八一一九園のうち六三七園が新たに移行し、三〇二四園が新制度の園となります。移行率は三七・二％となり、大きな流れとなりつつあります。さらに三〇年度以降の新制度への移行を検討している園は三八〇〇園にも上り、全てが移行すると八〇％を超える園が新制度移行園となります。しかしながら、三〇年度以降を検討している園は、ほとんどが「状況により判断する」と回答しており、まだまだ不透明な状況にあると言わざるを得ません。

また県内においては、二十九年年度に四十六園が新制度に移行する予定です。二十八年度までに移行した園を合わせると一八〇園が新制度の園として運営されます。まだまだ移行率は二五％程度と全国平均に比べて大きく下回っております。

幼稚園教育経営研修会を開催

危機を好機に変えよう

平成二十九年一月二十九日・三〇日の両日に亘り、箱根湯本温泉・ホテルおかだに於いて「幼稚園教育経営研修会」が開催されました。開会式では、私学振興課長・秋山昌弘様、次世代育成課長・榎原友二様にご挨拶をいただき、その後、基調講演と講座を行いました。二日目は園見学を行いました。

基調講演

「幼児教育をめぐる情勢と今後の課題」



【講師】
文部科学省
初等中等教育局
幼児教育課長
伊藤 学 司 様

①幼児教育の現状

女性の社会参画等により、保育園へ通う子が多くなっています。これからの日本社会は、全ての人の活躍を望まなければならぬ状況にあるため、女性が働きやすい環境を作る流れの中で、この傾向は更に加速する状況です。

昨年一年間に生まれた新生児が一〇〇万人を切る少子化でも、認定こども園は増えてい

国の新制度に対する財源の問題も、依然として残っています。消費税が一〇％になると、子育て支援新制度に約七〇〇億円の財源が投入されると言われています。しかし質の向上を含めた全てのプログラムを実施するには、更に三〇〇億円以上の財源が必要です。今後とも新制度に移行した園が安心して運営できるようになるには、公定価格の増額を含めた制度の改善が必要です。国や県に対してもしっかりと新制度への財源確保を訴えて行かなければなりませんので、引き続きのご支援をお願い致します。

■私学助成の充実と就園奨励費の拡充を

県内の私立幼稚園では、ほとんどの園がいわゆる私学助成の幼稚園として、引き続き運営される事を選択されています。子育て支援法成立の際には、国会の付帯決議として、私学助成の充実がしっかりと決議されています。県運は県内の私学団体とも連携して、神奈川県内の経常費補助金の増額を繰り返し訴えてまいりました。七月から八月にかけて、県議会との主要会派に対し二十九年年度の予算要望を続け、県民局長を始め私学振興課とも何度となく話し合う機会を作り、私立幼稚園の財政基盤を強固にすべくお願いをしてきております。担当当局のご努力もあり、過去二年間は大きく前進したと言えますが、さらに充実させるべく役員一同努力していきたいと思えます。また、保護者に対する「就園奨励費補助金制度」は、保護者の教育費負担軽減のために欠かすことの出来ない制度です。全日私幼連の進める幼児教育無償化の大きな流れもあり、

く前進したと言えますが、さらに充実させるべく役員一同努力していきたいと思えます。また、保護者に対する「就園奨励費補助金制度」は、保護者の教育費負担軽減のために欠かすことの出来ない制度です。全日私幼連の進める幼児教育無償化の大きな流れもあり、

ます。これは、地域によっては通える所には一つしか施設が作れない状況になってきており、その施設は教育の機能と保育機能を持つものというニーズが高まってきているからです。これからの幼稚園は、自己責任において今後の幼稚園の在り方を考える必要があります。

②幼稚園教育要領の見直し等 幼児教育の質の向上

子どもの数が少なくなってきたからこそ質の高い教育を提供し、社会人として活躍する人材育成が最重要課題であり、質の向上を担保するために幼稚園教育要領があります。幼稚園は各園で教育要領を検討し、日々の活動を展開することが今まで以上に重要となります。教育要領は概ね十年に一度改定しており、今年三月末には新しい教育要領が告示されます。この改定の基本認識は、変化の激しい社会に対応できる能力を付与するために、確かな学力・豊かな心・健やかな体を総合的にとらえたものになっています。また幼稚園から高校を通して教育の質の向上を図るため、これまで以上に小学校との接続が重要になり、資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメントを実施する必要があります。



公益社団法人
神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤俊通

二十九年度も増額することが出来ました。国庫予算からこの制度に総額四三三億円が計上され、地方自治体の予算と合わせると一三〇〇億円となる大きな事業となりました。子育て支援新制度の利用者負担額にも反映されることになっており、更なる前進といえるでしょう。ただ低所得者や多子世帯への負担軽減が優先されることとなり、私立幼稚園に通わせている中間所得世帯への拡充は見送られました。また、制度は拡充されても、県内では就園奨励費制度そのものを実施していない自治体が存在しています。地元の協会と協力しつつ、県内全ての市町村で実施して頂けるよう働きかけてまいりたいと存じます。

■各部の活動は

県運の五つの部は、事業計画に基づき積極的に事業展開をしてまいりました。総務部は毎月の正副会長会議や運営委員会などの会議開催や事務局の管理など担当して頂きました。財務室は中間決算や監査に対応し、広報室は年四回の会報「神私幼」発行や県運ホームページの更新などに加え、新たに父母連の広報にも関わり、県連の屋台骨を支えて頂きました。

振興部は先程述べた予算要望を中心として活動し、父母連研修大会や箱根の地で開催された「教育経営研修会」を企画実施されました。

経営管理部は就職相談会、後継者育成研修会、既卒者向け就職セミナーなどを企画実施されました。このセミナーは当初の事業計画にはありませんでしたが、県の事業を受託し、実施に踏み切ったものです。各園の人材確保については苦慮している声が大きくなっており、今後とも県連は人材確保に対する施策を推進すべく検討していく所存です。

③幼児教育無償化に向けた取り組みの 段階的推進

幼児期に質の高い教育を受けることがいかに重要なことが、様々な調査研究から明らかになってきたことが大きな要因で、所得の有無に関わらず、全ての子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、無償化は全世界的に進められており、日本も平成二十六年度の予算から少しずつ無償化を拡大しています。

④子ども・子育て支援新制度

核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などの問題から、地域全体で子育てをどのように行いかを考えて作られた制度で、子どもの年齢などに関わらず、地域の子どもは同じ様な条件の中で子育て支援するという発想です。幼稚園・保育園・認定こども園共通の施設型給付を導入すると共に、地域の保育活動を支援するための、新たな支援事業を作ることや、認定こども園制度を利用しやすくするために、指導監督を一本化する事業となります。

⑤平成二十九年年度の予算

来年度は、無償化に向けた段階的推進と環境整備の充実を行います。大きな特徴は、幼稚園の人材確保の取り組みの推進で、三億五千六百万円の新規事業が確保できたことです。新制度に移行した園にも更なる処遇改善がありますが、私学助成園にも、各園が教諭に処遇改善を行い、県がその支援を行った場合、県に対して国が支援する取り組みを初めて導入します。

研究部・研修事業部は新採研から始まり、資質向上セミナー、乳幼児保育セミナー、男性保育者勉強会、特別支援研修会、一〇年経験者研修会、免許状更新講習、公開研究保育、中堅教諭講習会など実に多彩で豊富な研修・研究活動をお進め頂きました。特に新採研や免許状更新講習などでは、真夏の猛暑の中、部員の皆様にご活躍を頂きました。

各部の事業や実績をとて限られた文章の中では書き切れませんが、部長・室長・次長を始めとする各部部員の皆様のご労苦に対し厚く御礼を申し上げます。

■新制度担当特別委員会の動き

県運は二十八年度も新制度に関わる諸問題を話し合う「新制度担当特別委員会」を設置致しました。特別委員会では、山口・八木正副委員長が中心となり、毎月のように情報交換が行われ、各地区協会へ最新の情報をお届けするようご努力頂きました。特に六月には、新制度に関する研修会を県連主催、横浜協会との共催と二週連続で開催する事が出来ました。新制度一年目の状況と移行した園からの財務面を含めた報告は、とても参考となり有意義な研修会でありました。新制度への移行については最終的には各園の経営判断ですが、県運としての情報の提供や全日私幼を通じての制度の改善要望を努力していきたいと存じます。今後とも子育て支援新制度の検証や市町村対応の情報交換を含めて、三〇年度以降の移行を検討されている園にも有益な情報が提供できればと考えています。

ともかく日々の予定をこなすことに精一杯の感もあり、会長職の重責を両肩にずっしりと感じています。どこまで県連としての役割を果たせるか、どこまで加盟園の声を行政や議会関係者にお届け出来るか、自問自答の毎日です。私一人の能力には限界がありま

すので、信頼する副会長や役員の皆様と議論を深めながら、少しでも加盟園のお役に立てるよう前進していこうと思います。

今までの経験がいかながら来年度に向けて準備を進めてまいりますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

講座

「幼稚園教職員の人材確保、育成」 ～他業種における人材育成～



【講師】
日本航空株式会社
客室本部客室安全推進部
部長
黒川 隆 一 様
日本航空株式会社
客室本部客室安全推進部
リードキャビンアテンダント
最所 和子 様

黒川様からは「客室乗務員の育成について」、また最所様からは「航空機内におけるお客さまの安全管理について」、CAのサービスマンとしての接客や保安要員としての具体的な対応などのお話を頂きました。

園見学

二日目は、友愛幼稚園と浅野記念御濠端幼稚園の二園にご協力頂き、三十二名の先生方が園見学をさせて頂きました。

久しぶりの一泊研修でしたが、約九〇名の先生方にご参加頂き、とても充実した研修会となりました。

(総務部長 苅込 大)



横浜協会

平成二十八年度

横浜協会研究活動の振り返り

教育研究部では、特別研究委員会が置かれており通称「特研」と呼び、特研1・2・3と分かれ、参加者を募り、それぞれ一年間のテーマを持ち、全九回の継続研修を行っています。その他に「保育実践事例研究委員会主六回（免許状更新講習含む）・研究講座（免許状更新を含む）・教員研修会二回・教育研究大会を行っています。

研修事業部では、保育力キャリアアップ研究講座全六回（免許更新を含む）・カウンセリング研究講座全四回（免許更新を含む）・園長設置者研修会二回・研究講座・教育経営研究講座四回を行っています。

横浜市では、「横浜市私立幼稚園等預かり保育補助事業」を導入している園が一七八園ありますが、今、その質をどう高めていくかを考えていく時期になっています。

（聖母幼稚園 櫻井 った江）

くものです。しつけとは親の良心を伝えていくことで、『七つ褒めて三つ叱る』。わが子の七つの宝を見つけてあげてください。

子どもを人として尊び、その内面に、自分を信じ、人っていいなと思う気持ちを育てていくこと、そのために大人は子どもの気持ちをわかってあげる存在でいることに理解を深めた時間になりました。

（恵泉幼稚園 大森 美保子）

湘央地区協会

湘央地区協会の研究・研修活動

当協会は平塚、伊勢原、秦野、二宮、大磯の三市二町で成り立っています。今年度地区全体としては絵本作家の長野にテ子先生をお招きして「絵本と紙芝居と子どもと私」という演題で話をしてくださいました。絵本の素晴らしさはもちろん、紙芝居の役割、重要性、楽しさも絵本を作る側からの話としてお聞きできたので、大変有意義でした。

また、平塚協会では「集団生活において気になる子どもへのアプローチとは」「子どもが日々過ごしやすい環境設定」「絆を深める集団遊び」。伊勢原協会では「描画について」「表現について」「保護者対応について」の二年継続研究の一年目を行いました。分科会によつては各大学教授の助言を受けています。二宮・大磯協会はオープン講座を開催して岸井慶子先生に子ども理解の講演を頂いています。各協会の研修・研究活動を基に、相互に研修大会を催しながら研鑽した一年でした。

（伊勢原ひかり幼稚園 佐伯 妙有）

小田原協会

感性を高め、柔軟な思考を保つ学びを

当協会では、「造形」をテーマに講師に小田原短期大学保育学科准教授・吉田収先生を招聘し、『紙・新聞紙・絵の具・墨・版画・木・PC』などを題材に六回の研究部会とオープン講座を開催しました。ワークショップ形式で行ったことで、楽しく学ぶ中に多くの気づきがあり、また、講師

川崎協会

川崎の幼児教育を考える

質の高い幼児教育を目指し、全ての子どもに対し一人ひとりの育ちを保障するようにと研修に取り組んできました。

「幼児教育研究会」では、いろいろな特徴をかかえた子どもたちへの具体的な対応だけでなく、家庭支援について学び、「新任教諭研修会」では、現場ですぐに必要なとなる幼児救急法や食育などいろいろな分野の講座を開催し、保育者としての知識を高めました。また「統合保育研究会」「子どもと共に育つ保育者研究会」「三歳児研究会」「免許状更新講習・一〇年教諭研究会」と「経験者教諭研修会」を開催し、一年間にわたり取り組んできました。

夏期休業中には、洗足こども短期大学のご協力を得て、必修領域十二時間と選択必修領域六時間の教員免許状更新講習を実施し、新任教職員研修会を兼ねた夏期宿泊研修会は大磯プリンスホテルで開催しました。

全加盟園参加での研修大会では、午前中に七つの分科会のまとめや発表、午後は東京成徳大学教授の寺田清美先生をお迎えし「保育者の伝える力」をテーマに記念講演を行いました。

（津田山幼稚園 嶋崎 正浩）

横須賀協会

教育・保育の質を高めるために

現場の視点を大切に 教育・保育の質を見直しましょう

子育て環境の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化しています。「子ども・子育て支援法」による、新たな「教育・保育」の体制が構築される時代を迎えましたが、大切なことは形にとらわれることなく、子どもに関わる保育者それぞれが、子どものために「教育・保育の質」を高めようとする意識を持つことです。

研究部では、子ども理解を通して具体的なスキルを学びながら、子どもにとっての教育的・保育

による「造形の発想」若冲から現代美術まで」と題した講演では多くの美術作品に触れ、感性が磨かれる研修になったのではと感じています。こうした研究会毎の学びを、自園に持ち帰って今後の保育に十分に活かすためには、各園の保育者の柔軟な思考や園内研修などによる取り組みに期待するところです。

（れんげ幼稚園 藤内 明子）

相和協会

研修事業を振り返る

本年、研究部の研修事業として、夏期研修会を行いました。午前中の全大会では講師にゴスペルアーティストのジェンナ先生をお迎えして、テーマを「ゴスペルを通して、心と体を開放し、普段の生活とは違う視点を持ち、自分と向き合う」として行いました。講演を聞くだけになってしまいがちな受け身型の研修ではなく、自ら声を出し動きながらという参加型の研修とすることで、日常あまり触れることのないゴスペルの体験が生まれました。また午後は、体育・造形・手遊び歌・普通救命講習の四つの分科会に分かれ、研修をしました。

九月には保育内容研修（オープン講座）として、NHK学園専任講師の山岸弘子先生をお迎えし「保育者マナーとプラスの言葉」というテーマで行いました。社会人として、保育者としての立ち振る舞いやマナーの講演、そして保育者としての言葉遣いや子ども達への言葉がけを「プラスの言葉でかけましょう」と、改めて日々の声掛けの大切さに気付かされた内容でした。

（倉見幼稚園 磯川 健）

的意味の「教育・保育の質」とはどのようなことなのか、保育者のキャリアや環境に応じて、保育者それぞれが考える機会を持つことを目的に活動してまいりました。

「身体・言葉・自然」、三つのカテゴリーの講演を通して自らの保育を見直し、また新たな視点・異なる視点から見えてくる子どもの姿に気付かれた保育者も多かったのではないかと思います。次年度は、今年度のインプットを生かしながら、実践による子ども姿を話し合える機会をより多く設けていきたいと考えています。

（南横須賀幼稚園 長澤 英子）

藤沢協会

豊かな保育をめざして

当研究部の研究方法は加盟園全体で共同研究を行っています。

研修会等は昨年六月のオープン講座から始まりました。講師は腹話術の鹿庭悦子先生を招き、子どもたちを引きつける表現を学びました。

七月の夏期研修会には目白大学名誉教授・谷田貝公昭先生から「幼児の生活習慣と生活体験について」講演をいただきました。

また、公開保育（十一月）では、のぞみ幼稚園の特色であるプール指導をはじめ、体育指導や制作の様子、生活習慣等を見て学ぶことができました。

湘南地区小田原大会（一月）におきましては、絵本作家・坂口慶先生による「ほんの読み聞かせ」について前年度五回の勉強会を開催し、研究部を代表し、わかふじ幼稚園の先生方に発表して頂きました。

この他に、関東学院大学名誉教授・鈴木秀雄先生による「なぜ運動が子どもたちに必要か」について今年度五回開催し、学んでいます。

当部は加盟園の先生方に研修会・勉強会を通して新たな発見をし、それが日々の保育に少しでも役立てて頂ければと願っています。

（湘南台幼稚園 高野 正基）

相模原協会

伝統、団結、挑戦

今年度は協会の理事役員改選があり、それに伴って研究部にも新たに若手の先生が数名加わってくれました。

フレッシュな布陣でスタートした今年度の研究部ですが、若手だけでは膨大かつ伝統のある研究部の業務を遂行するには力不足です。しかしその点はベテランの先生方が上手くフォローして下さいました。長年研究部で活躍されている先生が多数いらつしやるのも当研究部の強みの一つで、意見交換や研究・研修の検討を行う部会は、毎回活発なものとなっています。

今回大きく挑戦したことは、研究会に毎回大学講師をお呼びして、保育事例研究の助言を頂いたことです。事例研究は各園の先生方によって進められますが、研究会において他園の先生達から意見を聞けるだけでなく、講師による第三者的な視点を頂き、研究を深めることができました。

まだまだ課題も多数ありますが、自園に持ち帰った事例は研究会担当の教員のみなならず、園全体の保育向上につながるものと確信しております。来年度も一致団結して、研究・研修の充実を図っていきます。

（中央幼稚園 大貫 照親）

逗葉協会

今こそ小規模協会の良さを生かす

今年度は鎌倉女子大学の佐藤康富先生をお迎えし、連続講座として学期ごとに一回（計三回）『保育をデザインする・子どもとともに創る保育』をテーマに、写真を使った保育の「見える化」を学びました。

毎回宿題として持ち寄った各園のポートフォリオやドキュメンテーションをもとに、他園の先生と具体的に話し合ったり情報を共有したりすることで、視野が広がり自分の保育を振り返る機会となりました。

三回とも同じ形式で行ったので、会員相互の親

鎌倉協会

学びの必要性を再確認した一年

鎌倉市では、全教職員対象の全体会、課題別研修会、主任研修会を開催しました。全体会では、ユニバーサルデザインについて、〇・一・二歳児の発達について学ぶ機会がありました。私学幼稚園では、「すべての子どもたちの為の幼稚園」という視点は常に頭にはありますが、一人ひとりの子ども理解の幅が更に大きく広がる講演が印象的でした。

主任研修会では、新たな試みとして写真を使つての保育の見直し研修を始めました。園の保育がより充実するように、保育者の資質向上するように、主任の先生方がリードし、各園の保育を振り返ることができるようになって欲しいと願っています。

平成三〇年度には幼稚園教育要領も変わります。教育要領の内容を読み解き、実践へとつなげることの必要性を感じたこの一年。「何を、どう学ぶべきか」が明確となってきました。

（西鎌倉幼稚園 後藤 光葉）

茅ヶ崎協会

家庭教育講座より

子どもの心の育ちに見合ったしつけ

各幼稚園の枠を超え、家庭と手を携えて子育てを支援する役割に共通の思いを持ち、講演の機会を通して、お互いが子どもの育ちを理解し、関わり方に繋がる研修活動を目指してきました。

「家庭と幼稚園が心に留めることを共有しよう」と講師・今井和子先生（元立教女学院短期大学教授）の一言から始まった講演を一年の集大成としてご紹介いたします。

「赤ちゃんが気持ちを分かち合いたいと目を感じーつと見る仕草を愛おしく思い、泣く赤ちゃんに応えたいと精一杯世話をすることは、肯定感を育て、人を信じる基盤になる愛着を育んでいきます。思い通りにならないのが人生、その時に支えてくれる人がいることで乗り越える経験をしてい

しみと深まりができ、次年度も続けてほしいという意見と、もう少し先生の講義的なお話を聞きたいという意見がありました。

また次年度に向けて研究したいテーマとして、●保育者の連携・情報共有の在り方・プロジェクト型保育について

●領域別のテーマ（わらべ歌・あそび歌・造形遊び・地域の自然環境・友達関係）

などの積極的な意見も出しました。しかし、近年幼稚園に求められる課題が多くなり、どの園も年々忙しくなっている現状です。やむを得ず、限られた時間内の研修になりますが、更なる教員の資質向上をめざし、地域の幼児教育に貢献していかねばという願いを強くしています。

特に来年度は当協会が関東地区大会でフォーラム「子ども理解」を担当しますので、これをテーマに積極的に関わり合い組んで参りたいと思います。

（かぐのみ幼稚園 石井 稔江）

厚木地区協会

自ら進んで受けてみたいと思う研修を

新人研修は南極観測隊員の方の話を聞き、想像を超える現地の様子や、一人何役もの仕事をこなす逞しさと力量に驚きました。実際に防寒着や靴を身に着けたり、南極の氷に触れたりと貴重な体験が出来たことも有意義でした。運動会を前にして七月に行われたオープン講座、日本遊育研究所主宰・瀬戸口清文先生の「みてー！の声を引き出す運動遊びの実践」は、会場が満員になるほどの盛況で、保育者自身がプロセスを楽しみ、無理なく子どもを引き込んでゆく指導方法を学びました。二年継続の研究会は、各園の研究部員が真摯に三つのテーマに取り組み、今年度は一月の県央地区大会にて研究成果を発表し、助言の先生方のご指導の下、活気溢れる分科会となりました。二月には「使いこなそうPC」の研修を予定しています。自ら進んで受けた、明日からの活力になる研修を今後も実施してまいります。

（厚木幼稚園 大谷 佳子）

平成29年度 私学振興費の概要について

2月9日、県庁において平成29年度県予算(案)「私学振興費」の概要について、県民局長から私学関係団体の代表者等へ説明がありました。一般会計全体の当初予算額は1兆9,400億円で、前年度に比べ730億円の減、伸び率でも96.3%という厳しい予算(案)となっています。県民局長からの説明によれば、県税収入が5年振りに減収となったことから、いわゆる借金となる県債の増額や財政調整基金の取り崩しなどによる厳しい予算編成となったようです。

しかし、こうした状況の中において、幼稚園関係でみると、経常費補助金における園児一人当たりの単価(県の割戻額)では7,693円の増(前年度比率105%)となっており、平成28年度当初予算における5,314円増(前年度比率103.6%)をさらに上回り、他の学校種別との比較でも特出した伸びとなっています。財政当局との厳しい予算攻防における県民局担当者の皆様のご努力に対しお礼を申し上げたいと思います。内訳は表のとおりですが、子ども・子育て支援制度の適用による幼稚園補助対象園数の減等により、経常費補助額の全体や、その内訳の預かり保育推進費補助や地域開放推進費は減額となっています。その一方で、経常費補助以外の予算として、特別支援教育費補助が109.4%と大きく伸びたことや、新規予算として、私立幼稚園移行準備費補助や私立幼稚園園務改善費補助が設けられています。

私学振興費の説明に続いて、次世代育成課分の当初予算(案)についても説明がありました。ここでは詳細は述べませんが、地域型保育事業の卒園児の受け皿を確保し(いわゆる3歳の壁への対応)、保育の質の向上を目的として、新たに幼稚園を対象に加え、連携に要する経費への補助として「地域型保育事業連携対策緊急支援事業費補助」が新設されています。保育と幼稚園との連携が求められているとの説明でした。

(振興部長 石井和則)

平成29年度当初予算(案) 私学振興費の概要				(私立幼稚園関係抜粋)
事業	平成28年度	対前年度比	幼稚園関係摘要	
	(千円)	(%)	園児単価：国の基準単価 182,453円 県の割戻額 160,198円 前年度比較 7,693円増(105.0%) (新制度移行に伴う補助対象園数の減47園減)	
経常費補助(一般)	13,366,139	89.0		
内 預かり保育推進費(特別)	540,485	81.2	補助対象園数の減 437園→363園(74園減)	
内 地域開放推進費(特別)	182,600	95.6	補助対象園数の減 300園→284園(16園減) (新制度移行園含む。)	
幼稚園教員復帰支援事業費	1,729,000	100.0	潜在幼稚園教員の復帰促進のための就職相談会等の実施	
私立幼稚園特別支援教育費補助	1,741,264	109.4	補助対象園児数の増 2,368人(205人増) (新制度移行園含む)	
私立幼稚園移行準備費補助	30,400	新	認定こども園等への移行にかかる業務負担軽減の費用補助	
私立幼稚園園務改善費補助	22,500	新	幼稚園業務の負担軽減のための支援システムの推進	
その他	588,750	100.1	認定こども園移行耐震化工事費補助 427,845千円 私立幼稚園緊急環境整備費補助 160,905千円	
私学団体助成費	6,400	100.0	私学4団体の研修事業費等に助成	

研修事業部・研究部

研究特別A部会

共感し、問い続ける

保育者集団を育む



寄稿
講師

鎌倉女子大学短期大学部
初等教育学科
教授 佐藤康富先生



A部会は「公開保育を通して、自園の保育を見直す」のテーマのもと、県内からおおよそ四〇名が参加し、年八回研修を深めてきました。なかでも、この部会の特色は学期に一度、他園の公開保育に参加することです。今年度は六月に伊勢原ひかり幼稚園(湘央)、十一月に鴨居幼稚園(横須賀)、一月にはやし幼稚園(厚木)が公開保育を行って下さいました。また、この公開保育を行うにあたっては、全日のコーディネーター養成講座とも連動し、部会のスタッフの先生方が公開保育のコーディネーターを務めています。

かつて、倉橋惣三は「育ての心」の中で、「自らを新たにする努力」と題して、「どんなによい教育も、必ず考え直しの時期に迫られる」と述べています。それは自分達の保育を吟味することです。当たり前にやっていることを、問うことです。その為には、自分達とは違う、異質な目を入れる必要があります。そこで、A部会の参加者は他園を参観させてもらうことで、



も、公開園の職員にとってもゴールではなく、問い続ける一里塚、学びへの旅の始まりでもあるのです。倉橋は「驚く心が失せた時、詩も教育も、形だけが美しい殻になる」と述べました。質の高い保育はこのような驚く心、問い続ける心を持つ保育者集団の中にのみ、立ち現れてくるのではないのでしょうか。

研究特別B部会

「研修を受けている」ではなく

「研究している」感覚を大切に



寄稿
講師

和泉短期大学
児童福祉学科
准教授 相馬靖明先生



B部会では、写真を持ち寄り小グループでのカンファレンスを行うことを繰り返しています。平日の午後には園を出て夕方いっぱいを研修に当てるわけですから、時には翌朝早めに出動してその日の支度を間に合わせることもあるでしょうし、毎回エピソードを持ち寄ることも大変だろうと思いますが、皆さん楽しみに参加されていることが伝わってきます。

写真を使う研修は「小さな公開保育」でもあります。多様な環境があり、環境へのアクセスが容易であることが幼児の能動性を引き出すので、保育者が「幼児の気づき」に気づく場面(＝写真に撮ろうと思ったり、エピソードに取り上げようと思ったりする場面)も自然と増えます。ところが、環境が豊かで取り組み方に自由さのある他園の実践を目にすると、このような研修が苦痛になる場合もあります。そこで、毎回ではありませんが、どの園でも実践できそうな活動をいくつか紹介し、それをやってみてのエピソードを持

ち寄ることもできるようにしています。次回それらを並べてみることで、さらに自分にもできそうなが見えてくるようです。グループワークでは、相手の振り返りの言葉に耳を傾け合い、持ち寄られた写真の幼児の様子に注目し合い、見つけた良さをフィードバックし合うことを要求しています。またグループワークでの対話の際の「枠組み・使う言葉」として、毎回何らかの資料を提示しています。それらは、海外から持ち込まれたものであったり、数十年前のいわゆる六領域時代のものであったり、教育要領に新たに示される「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」であったりします。持ち寄ったエピソードをある視点で意味付け、それらしい言葉で語ってみることは「研究しているらしさ」につながるのだととても大事なことです。幼児の自己肯定感を育てることとどこかでつながっているはずです。



される「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」であったりします。持ち寄ったエピソードをある視点で意味付け、それらしい言葉で語ってみることは「研究しているらしさ」につながるのだととても大事なことです。幼児の自己肯定感を育てることとどこかでつながっているはずです。

既卒者向け就職セミナーを振り返って 園と既卒者のかけはしに

今年度も、幼稚園教諭免許を持ちながら幼稚園教諭としては働いていない方を主に対象とした就職セミナーを、横浜・藤沢・相模原の県内三地区で実施しました。この事業は神奈川県からの受託事業で、「現場復帰支援研修」、「就職相談会」と「現場見学会」の三つメニューで構成することを求められていましたが、計画と実施の間でギャップを痛感させられる事業でした。

一人でも多くの参加者を募るため、タウンニュースなどへ掲載したほか、鶴沼めぐみルーテル幼稚園園長の加部先生に、藤沢FM放送に出演もしていただきました。

こうした努力の甲斐もあり、藤沢会場では、伸び悩んでいた参加者数も申し込み期限の間際になって、少しずつ増えました。一方、年明けの一月下旬に相模原地区で開催したセミナーでは、時期が時期なのか、予測はしていましたが参加者が伸びず、当日の天候なども影響したのか、定刻になってからも申込者が現れず、開催園や部員、事務局にもお手間をお掛けしながら、部長として心苦しく帰宅しました。

反省点は多々ありますが、ラジオやタウンニュースなど新たな広報手段を試みたこと、横浜会場だけではなく県内各地で実施できたこと、各幼稚園や参加者へのアンケートを実施し、既卒者に対するニーズやセミナーの実施時期などについて、少なからず学ぶこともできたと考えています。

さて、次年度この事業を再度受託することができた時には、セミナーを運営する側の意見や要望を神奈川県の方によくお伝えするとともに、反省点を生かして、今年度以上に効果的な事業ができればと思います。幼稚園での人材確保が年々厳しさを増しており、この二年間行ってきたやり方のままでは限界があるように感じています。次年度の計画作成にあたっては新しい手法にも挑戦して、各幼稚園や各協会での教員確保に少しでも貢献でき、一人でも多く園と既卒者が結ばれるきっかけとなることを、心から願っています。

(経営管理部長 近藤康弘)



▲藤沢会場での就職セミナーの様子

研修会報告 研究部主催 研修事業部主催

12月6日(火) 既卒者・新卒者向け就職セミナー 藤沢商工会議所 11人
就職・現場復帰に向けて～子どもの世界って楽しいですね～
四季の森幼稚園 園長・玉川大学 教授 若月 芳浩 先生

12月15日(木) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会 ヨコハマジャスト 83人
子どもと家庭をめぐる今日的課題と具体的支援家族支援を考える
Nippon Date社会福祉研究所副所長・教育福祉研究室長 上原 文 先生

12月20日(火) 資質向上セミナー かながわようちえん会館 68人
「教育の視点から経営を考える～子どもの声に学んで保育を豊かに～」
安部幼稚園 園長 安部 富士男 先生
福島大学 教授 大宮 勇雄 先生
玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生

12月20日(火) 湘央オープン講座 生涯学習センターラティアンミーティングルーム 55人
～見えてくる子どもの世界～ビデオ記録を通して保育の魅力を探る
青山学院女子短期大学 子ども学科 教授 岸井 慶子 先生

12月22日(木) 男性保育者研修会 かながわようちえん会館 27人
「自分らしさを活かすには」(第2回)
和泉短期大学 准教授 相馬 靖明 先生

1月18日(水) 横須賀オープン講座 横須賀三浦教育会館 40人
自然を遊ぼう～身近な自然遊びの実際と発展～
生体計画研究所/主査研究員 佐藤 真人 先生

1月20日(金) 既卒者・新卒者向け就職セミナー 淵野辺ひばり幼稚園 2人

1月24日(火) 横浜オープン講座 かながわようちえん会館 39人
「子どもと楽しむ絵本の世界」
～読み聞かせの楽しさ、大切さ、絵本の選び方、読み方などを
子育てや地域のお話の体験からの例を挙げてお伝えします～
元福音館書店 社員・現茅ヶ崎市公民館事業・子育て講座「わらべうたで遊ぼう」講師 荒川 薫 先生

1月29日～30日(日・月) 幼稚園教育経営研修会 箱根湯本温泉・ホテルおかだ 94人
■基調講演
「幼児教育をめぐる情勢と今後の課題」
文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 伊藤 学 司 氏
■講座
「幼稚園教職員の人材確保、育成」～他業種における人材育成～
日本航空株式会社 客室本部客室安全推進部 部長 黒川 隆一 氏
リードキャビンアテンダント 最所 和子 氏

2月24日(金) 若手後継者のための保育勉強会 かながわようちえん会館 40人【予定】
「園の保育を見直す方向を探るために～新教育要領の方向性～」
玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生

2月27日(月) 返葉協会オープン講座 かぐのみ幼稚園 50人【予定】
「子どもの世界をどう読みとるか」
RISSHO KID'Sきらり 園長 坂本 喜一郎 先生

From the Public Relations Section

編集後記

1月末に行われた教育経営研修会の2日目、10数名の園児学者をお迎えしました。その日は風の強い日で幼稚園から見える小田原城址公園の二の丸広場にある楠木が、ざわざわと揺れていました。その光景を「いいですね」と言ってくださった参加者。毎日当たり前に感じていたことを、改めて意識した瞬間でした。年度末を迎え、新制度のことも含めそれぞれの園でこれからの課題は様々なあるかと思っています。日々の忙しさ・慌ただしさに流されがちな我が身を振り返り、立ち止まって考えることの必要を感じています。「神私幼」も新しい企画をし、より皆様により意義で愛される広報誌として歩んでいきたいと願い、力を尽くして参ります。ご意見・アドバイス等ありましたらお寄せください。今年度も「神私幼」をご愛読いただきありがとうございます。

広報室員 島田 美緒

法律相談 R&G横浜法律事務所
横浜市中央区住吉町1-2(スカーフ会館3階)
TEL.045-671-9654
県連窓口担当 西村 将樹 弁護士

幼稚園の広報活動について

企業と同じく多くの幼稚園でもホームページ等を利用して自園についての広報活動を展開していると思います。幼稚園の場合には様々な教育活動等を外部に発信することで、保護者だけではなく、地域社会とのつながりを深め、また外部からの意見を導入する契機ともなりますので、効果的な利用が推奨されているといってもいいと思います。

もっとも、注意していただきたい点もあります。例えば、群像写真であっても単なる通行人等ではなく特定の幼稚園の園児・保護者等の情報が付加されている場合には、いわゆる肖像権の保護という問題が出てきます。

また、幼稚園の行事等について詳細な情報を提供した場合に、行事に対する妨害(予告)を行うことに悪用される可能性がないとはいえませんので、情報を発信する目的に照らして絞り込む必要があるでしょう。そこまでに至らないケースでも、例えば園児の父母が離婚係争中で、子どもに会えていない一方の親が突然行事の場に現れて現場が騒然とすることもあり得ます。このような事態はホームページ等の記載方法だけで防げるものではありませんが、情報発信のあり方につきましては一度見直していただきたくことも大切だと思います。

平成28年 法律相談件数

相談内容	労務	6
	経営	4
	保護者	11
	事故	2
	その他	1
合計		24

教育相談 相談の申し込み
電話・ホームページから事務局へ申し込みください。
TEL.045-440-3210
http://www.shinshiyou.com
教育相談員 鈴木 敦子 先生(臨床発達心理士)

賢い子? 困った子?

リュックも水筒も背負ったままで「おうちに帰る」と朝泣いている年少男児。3学期では珍しいです。しばらく横に座ってみました。すると私の腕時計に興味を示し、「なんで12と6しか、かいてないの?」と尋ねてきました(私はその時、初めて文字盤に気づきました)。またオルガンに掛けてあった当番表を指して、「今日は〇〇ちゃんがお当番で」と言いながら表を2枚めくって自分の名前をだし、「今日は16日だから(自分は)18日がお当番なの」とうれしそうに教えてくれました。16+2=18の足し算ですね。たまたまその16日がその子の誕生日だったので日にちを覚えていたのかもしれませんが。そしてちょうど4歳になりました。二けた数字の12を「じゅうに」と正しく読み「いち」と「に」とは読んでいません。賢い子ですねと言いたくなりますが、持ち物を所定の場所に置いたり体操着に着替えたりと朝の支度が全くできていません。凸凹が激しいのです。さて貴園ではこのような子どもへの対応をどのように行っていますか?

平成28年 教育相談件数

	電話	面談	出張	計
1月	0	1	1	2
2月	0	2	5	7
3月	1	0	0	1
4月	1	2	5	8
5月	5	2	6	13
6月	0	5	1	6
7月	3	2	2	7
8月	0	1	0	1
9月	1	2	0	3
10月	3	4	1	8
11月	1	3	1	5
12月	2	1	1	4
計	17	25	23	65